IRIDeS
International Research Institute of Disaster Science

みちのく震録伝
東北大学アーカイブプロジェクト

今後予想される
震災アーカイブの未来について

東北大学 災害科学国際研究所 災害文化アーカイブ研究分野
柴山　明寛

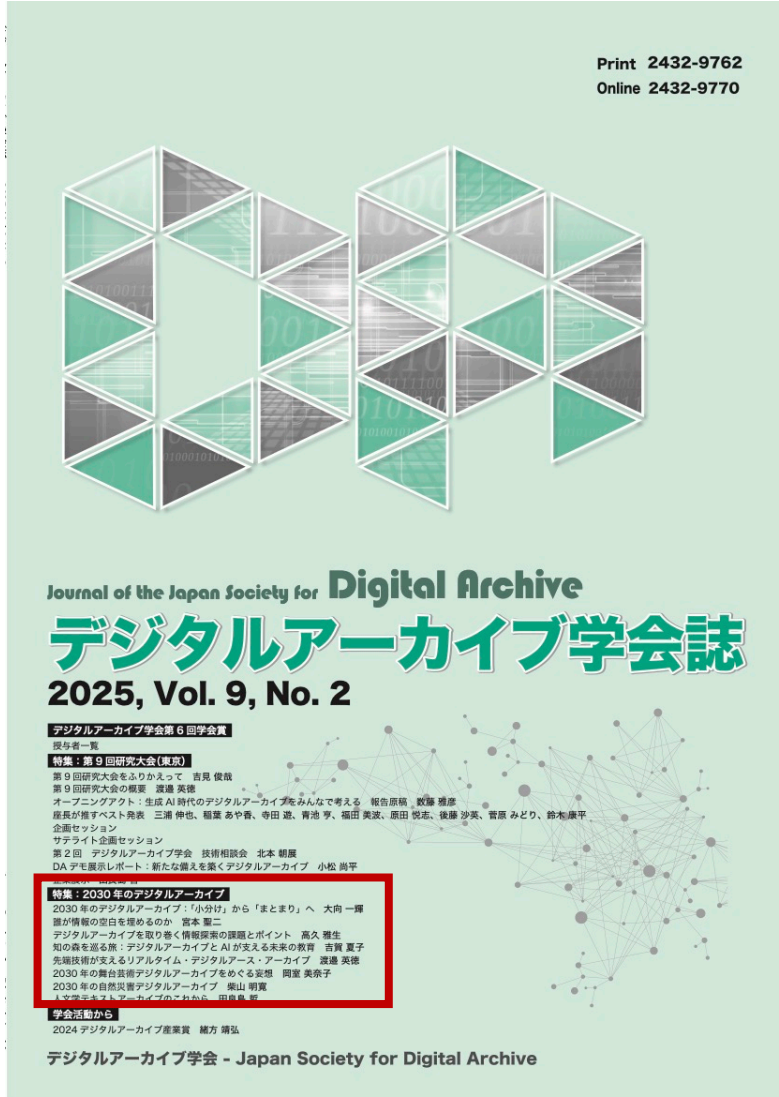
shibayama@irides.tohoku.ac.jp

今後予想される震災アーカイブの未来について

1. 自然災害デジタルアーカイブの統合について

2. 自然災害デジタルアーカイブによるAI による変化

今後予想される震災アーカイブの未来について



デジタルアーカイブ学会誌
2025, Vol9, No2, 2025/05/01

特集：2030 年のデジタルアーカイブ

2030 年のデジタルアーカイブ：「小分け」から「まとまり」へ　大向 一輝
誰が情報の空白を埋めるのか　宮本 聖二
デジタルアーカイブを取り巻く情報探索の課題とポイント　高久 雅生
知の森を巡る旅：デジタルアーカイブと AI が支える未来の教育　吉賀 夏子
先端技術が支えるリアルタイム・デジタルアース・アーカイブ　渡邉 英徳
2030 年の舞台芸術デジタルアーカイブをめぐる妄想　岡室 美奈子
2030 年の自然災害デジタルアーカイブ　柴山 明寛
人文学テキストアーカイブのこれから　田良島 哲

https://doi.org/10.24506/jsda.9.2_82

1. 自然災害デジタルアーカイブの統合について

2011年東日本大震災以降，2016年熊本地震，令和元年東日本台風，2024年能登半島地震などで自然災害デジタルアーカイブが構築されている．

※構築時は強い意志と目的，予算があるが，5年から10年後に課題が発生．

【維持管理のための課題】

※課題は複数有り，複数の要因がある

組織的・人的資源の課題，管理・運営費の課題，利活用の課題，デジタルの引き継ぎの課題．連携の課題．制度の課題，など

※詳細は「デジタルアーカイブベーシックス・デジタルデータの長期保存・活用」（2025年3月出版）及び「情報の科学と技術，特集：震災アーカイブの持続的な継承（仮）」 2026年2月号に掲載予定

消滅	移管・継承 （ひなぎく，みちのく震録伝など）	第3の道 他のアーカイブと統合，発展
絶対に防ぐことが必要	解決策の一つではあるが，良い面，悪い面の両方がある	推奨

2. 自然災害デジタルアーカイブによるAI による変化

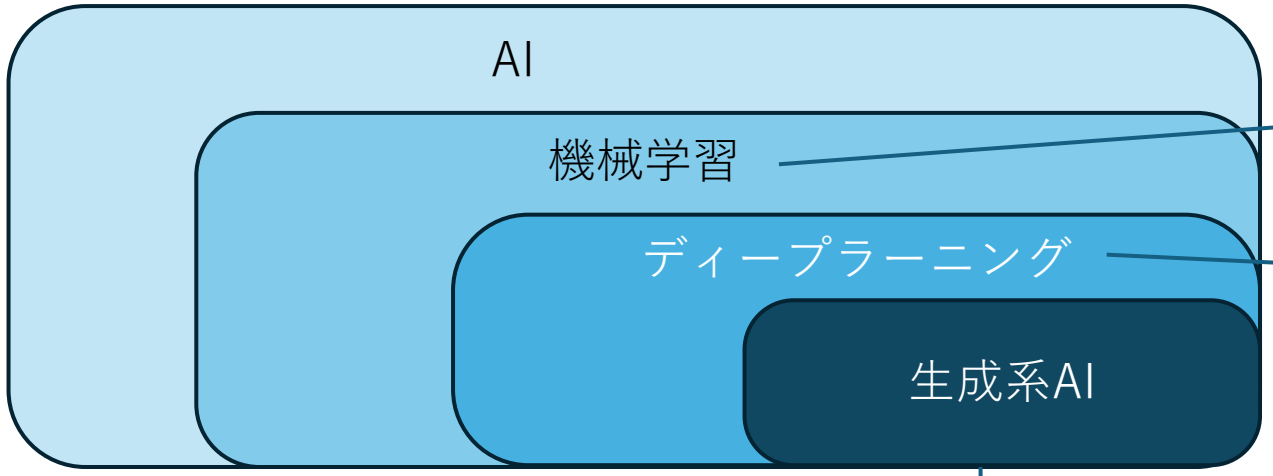


図　AIの概念図（実際はもっと複雑）

同じモノを見つけるのが得意
（人間が特徴を指示）

同じモノを見つけるのがさらに得意
（機械が自動的に特徴を判断）

アーカイブで最も人件費と時間がかかる整理・分類などが自動化をすることが可能

新たなものを創造することができる

災害デジタルアーカイブの災害画像データ等を学習データとして使用することで，新たな災害画像を生成することができる．

デメリット

偽情報の流布に繋がる危険性が高い

メリット

防災学習効果の高いコンテンツを生成できる可能性を秘めている

ご静聴ありがとうございました.

shibayama@irides.tohoku.ac.jp